

登別中学校区検討部会における 協議経過について

令和6年3月6日
登別市教育委員会

登別中学校区検討部会における協議内容

【登別中学校区検討部会のテーマ】

- ① 新校区検討部会で協議する特色ある教育の取組について
- ② 幌別中学校への通学方法について

新校区検討部会で協議する 特色ある教育の取組について

熊舞の取組について

H16年度の温泉中学校統合を機に同校から取組を引き継ぎ、現在まで継続。

- ・ 3年生を対象に実施。
- ・ 地獄まつり（8月）と引継式（12月）で披露。
- ・ 披露前のそれぞれ約2週間は、総合学習の時間に練習を実施（郷土学習の一環として）。

（地獄まつり）

まつり当日のほか、プレイベントとして、まつり前日にJR登別駅前などで披露。本年度は、観光交流センターヌプルで実施。

（引継式）

3年生から2年生に熊舞を引き継ぐイベント。式前に3年生の指導により2年生が熊舞を練習し、引継式において、全校生徒の前で披露。

鬼みこしの取組について

H16年度の温泉中学校統合を機に同校から取組を引き継ぎ、現在まで継続。

- ・ 全校生徒を対象に実施。
- ・ 地獄まつり（8月）に参加。
- ・ 地獄まつり前に、総合学習の時間に練習を実施（郷土学習の一環として）。

※温泉中学校統合を機に同校から引き継いだ神輿を学校として所有。地獄まつりの際には、この神輿をもって参加。

※地獄まつり前に総合学習の時間を2コマ程度活用し、全校生徒で練習を実施。

新校区検討部会での協議事項【まとめ】

● 熊舞の取組

● 鬼みこしの取組

幌別中学校への通学方法について

通学距離の目安

徒歩や自転車による場合

国が示す目安

- 小学校：おおむね4 km以内
- 中学校：おおむね6 km以内

(文部科学省「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」)



ただし距離的に実情にそぐわない面が . . .

他市の事例などを踏まえ、

- 小学校：2 km以内
 - 中学校：3 km以内
- をひとつの目安としています。

登別中学校区からの通学距離

- 登別中学校～幌別中学校 7.4 km
- 登別温泉～幌別中学校 11.8 km (大橋経由)
15.0 km (登中経由)
- カルルス～幌別中学校 12.9 km (大橋経由)
20.8 km (登中経由)

幌別中学校との統合により、
全域が「**徒歩通学困難地域**」に



何らかの交通手段を利用しての通学となります

徒歩通学困難地域への対応

①遠距離通学費補助

登下校に公共交通機関を利用し、交通費を教育委員会が補助

②スクールバス・スクールタクシー

教育委員会が登下校用スクールバスを運行

③遠距離通学費補助とスクールバスの地域分離型

遠距離通学費補助の地域とスクールバスの地域に分けて運用

通学方法検討にあたっての基礎条件

- 登下校とともに公共交通機関の現行ダイヤで対応可能か要確認
- 国が示す通学時間の目安は（交通機関利用時）概ね1時間以内

登別地区・温泉地区
条件面では
公共交通機関でも対応可

カルルス地区
ダイヤ・時間ともに
公共交通機関では対応不可

通学方法のメリット・デメリット

①遠距離通学費補助

- 【メリット】 ●乗車便に選択の幅があり、利便性が高いと言われる。
●公共交通機関の利用で、生徒の成長を促す部分あり。

【デメリット】 ●降車後に徒歩を要し、通学時間が長くなる。

②スクールバス・スクールタクシー

【メリット】 ●学校まで運行され、通学時間の短縮となる。

【デメリット】 ●登下校時間に選択の幅が無い。



校区内の保護者を対象に意見交換会を開催

意見交換会における参加者の意見

- 中学生という年齢を考えると、スクールバスが望ましい。
- 安全に短時間で通学できるので、スクールバスにして欲しい。
- 各家庭の選択制が難しいのであれば、スクールバスにして欲しい。
- 路線バスの場合、帰宅時間の把握が難しくなるので、スクールバスが望ましい。

意見交換会における参加者の意見

- 路線バスの場合、学校を出る時間が少しでもずれると乗り遅れる可能性があるので心配。
- 路線バスの場合、乗り遅れると次のバスまで1時間以上待つケースもあるので心配。
- 路線バスの場合、遅延発生時や運休時に保護者の把握が難しいが、スクールバスの場合には、運行自体に問題が生じてても、連絡面では安心。

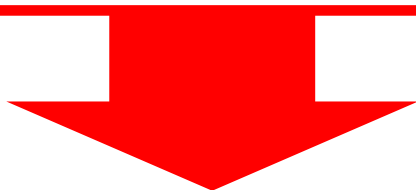
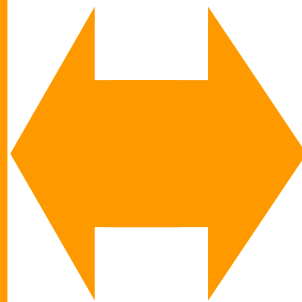
幌別中学校への通学方法【まとめ】

路線バス利用への心配

- 少しのズレでの乗り遅れ
- 乗り遅れ時の待ち時間
- 運休等の把握が難しい

スクールバスの安心感

- 安全・短時間の通学
- 乗り遅れが無い
- 帰宅時間が把握できる



検討部会のまとめ

「通学方法はスクールバスに」

※運行方法などはバス事業者の動向が見えてきた段階でP T Aを中心に協議

新校区検討部会における 協議経過について

令和6年3月6日
登別市教育委員会

新校区検討部会における協議内容

【新校区検討部会のテーマ】

①校名／校歌／校章について

②制服のあり方について

③特色ある教育の取組について

④生徒同士の事前交流事業について

校名／校歌／校章について

両校の校名／校歌／校章について

●校名について

ともに昭和22年5月1日開校で、登別市内で最も古い中学校。

●校歌について

幌別中学校

作詞 飯田 広太郎
作曲 千葉 日出城

1. 連峰はるか 雲を呼ぶ
希望も明るき 大空に
若き命の 窓あけて
伸びゆく幌別中学校 中学校

2. 万里の波路 風かほり
力もあふるる 太平洋
若きほこりを たたえつつ
肩くむ庭こそ楽しけれ 楽しけれ

3. 流れも清き 川水の
高きしらべに 眉あげて
とわの光を あこがるる
我等の行手に栄あれ 栄あれ

登別中学校

作詞 有坂 了源
作曲 洞口 曙光

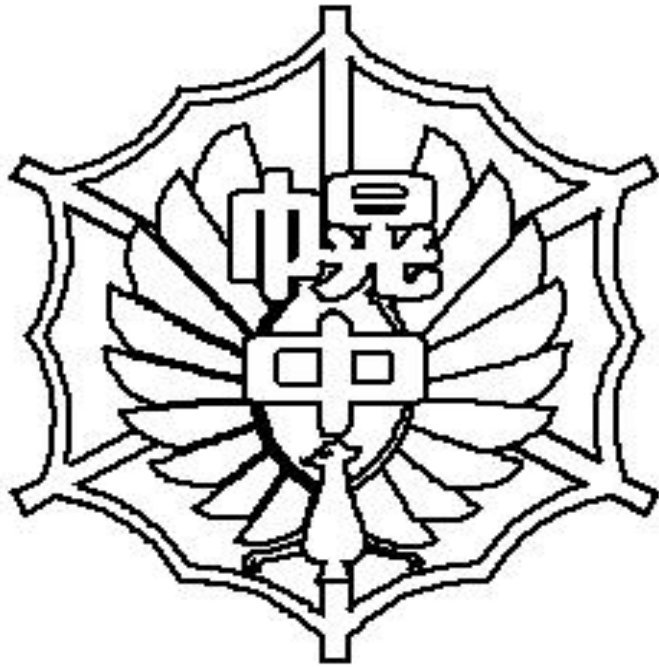
1. 太平洋の潮の音に
希望あふるる登別
愛とまことにかがやける
あたらしき世をつくりつつ
清く明るくおおらかに
学びの庭に生きゆかん

2. 自然の調べ美しく
めぐみゆたけき登別
若き文化の花さかせ
日本のかどでことほぎつ
清く明るくおおらかに
学びの庭に生きゆかん

両校の校名／校歌／校章について

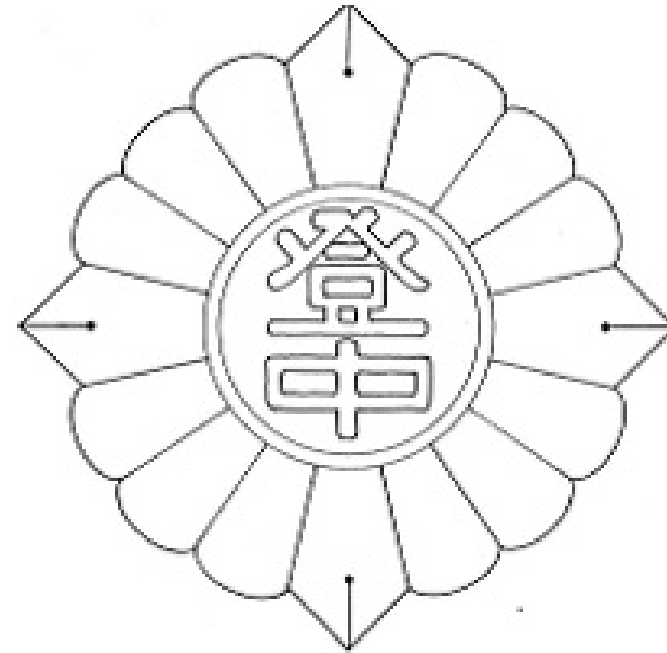
●校章について

幌別中学校



制作者：石田 茂

登別中学校



制作者：坊坂 博

校名／校歌／校章に関する議論

校名等は新しくした方がいいという意見

- 両地区は生活圏も異なり、統合にマイナスイメージが強いため、楽しんで統合に臨む環境が必要。
- 校区が広く、一体感を持つための仕掛けが必要。
- 子どもたちは統合に不安を感じつつも、校名等の制定に関わったことに喜びを感じることができる。
- 校歌や校章はその地域を表現しており、それらを通じて地域の成り立ちを感じることができる。

校名／校歌／校章に関する議論

校名等は「幌中」を継続した方がいいという意見

- 校名も大切だが、特色ある取組や部活動の強化など中身の部分で新しい学校を作るのが重要。
- 近い将来に西陵中との統合が想定されるのであれば、校名等の議論はその時でいいのではないか。
- 子どもたちの思いも然ることながら、大人の納得を得る部分が大いいのではないか。
- 両校の交流機会など統合後の環境づくりが重要。

校名／校歌／校章について【まとめ】

校名等は新しくという意見

- 両地区は生活圏も異なり、統合にマイナスイメージが強いため、楽しんで統合に臨む環境が必要。
- 子どもたちは統合に不安を感じつつも、校名等の制定に関わったことに喜びを感じることができる。

意見交換

校名等は「幌中」を継続という意見

- 校名も大切だが、特色ある取組や部活動の強化など中身の部分で新しい学校を作っていくのが重要。
- 大人の納得を得る部分が大いではないか。子どもたちは校名等の冠自体には関心が薄いのでは。

引き続き校舎を使用する学校名等を継続することが理解しやすい。
(引き続き校舎を使用する「幌別中学校」の校区拡大と整理)

校名／校歌／校章は「幌別中学校」

〔 制服を新しくし、特色ある教育の取組など両校の良さを活かすことで新しい学校を作っていく。 〕

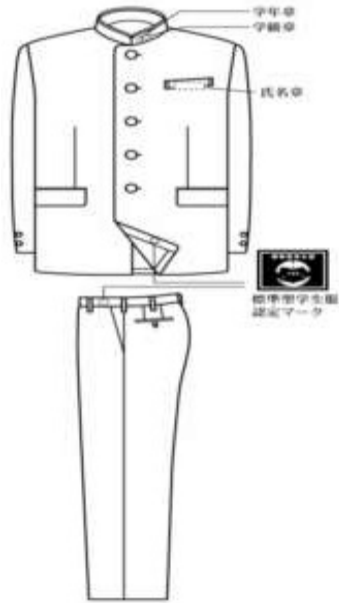
制服の取扱いについて

両校の制服について

幌別中学校

●男子

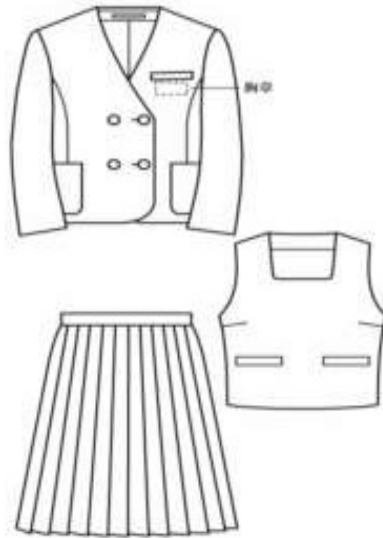
標準型学生服



※夏季は白ワイシャツ

●女子

標準的なイートン服

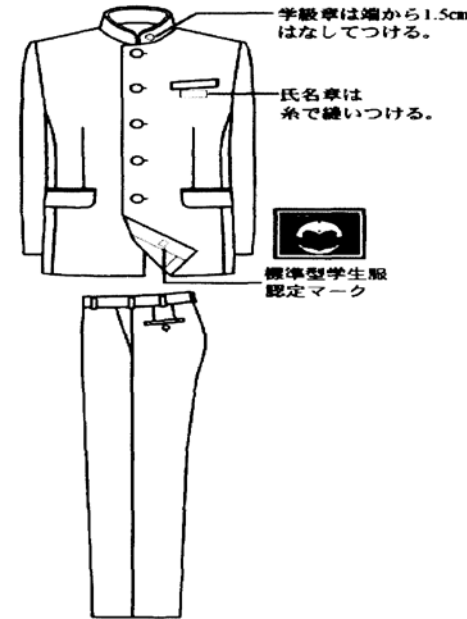


※夏季はベストのみ

登別中学校

●男子

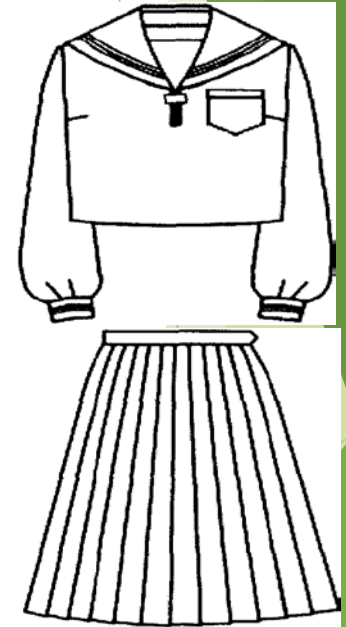
標準型学生服



※夏季は白ワイシャツ

●女子

標準的なセーラー服



※夏季は白色セーラー服

※全国的にジェンダーレスの制服を導入する例が多くなっており、本市においても、令和5年4月より、鶯別中学校でジェンダーレス制服を導入。

統合後の制服の取扱いについて【まとめ】

「統合に際して新たな制服を導入」

新制服導入の考え方①

令和7年度の新入学生から、統合前の両校で先行して導入

【メリット】

統合時に全生徒が同じ制服を着用

【デメリット】

制服選定に時間的余裕が無い

新制服導入の考え方②

令和9年度の統合時に、統合後の学校で新制服を導入

【メリット】

制服選定に時間的余裕がある

【デメリット】

統合時に学年で異なる制服を着用

令和7年度から統合前の両校で導入

新制服導入に関する進め方

● 基本的な考え方

令和7年度の新入学生から、統合前の両校で先行して新制服を導入し、令和9年4月の統合時には全学年・全生徒が同一制服を着用。

● 制服の選定方法

両校生徒による合同委員会で複数候補を選定し、両校在校生、幌別小、幌別東小、登別小の4～6年生の投票で決定。

● 想定されるスケジュール

令和6年2月

両校教員及びPTA役員により1次候補選定

令和6年3月～4月

両校生徒による合同委員会で最終候補選定

令和6年5月

児童・生徒の投票により制服決定

令和6年12月

両校新入学生徒への周知・説明

令和6年3月 日

登別市教育委員会
教育長 安宅錦也様

幌別中学校と登別中学校の
統合に関する学校統合委員会
会長 中川信市

幌別中学校と登別中学校の統合に関する中間意見について

令和9年4月に予定される両校の統合にあたって生じる課題への対応方法や環境整備について、次のとおり中間意見を提出します。

記

1. これまでの経緯と協議経過

登別市教育委員会は、特定校に関し学校統合に関する方針を決定した場合には、統合に関する詳細を決定するため、学校統合委員会を設置することとしており、本委員会は、令和9年4月に予定される幌別中学校と登別中学校の統合に関し、統合にあたって生じる課題への対応方法や環境整備について協議することを目的に設置されたものである。

協議にあたっては、委員会の下に、登別中学校区検討部会と新校区検討部会を設け、前者では現在の登別中学校区に関わる事項をテーマに、後者では統合後の新校区に関わる事項をテーマに具体的な検討を行った。各部会における協議経過は次のとおりである。

(1) 登別中学校区検討部会における協議経過

登別中学校区検討部会では、令和5年11月から令和6年1月にかけて3回にわたって会議を開催し、①新校区検討部会で協議する特色ある教育の取組について②幌別中学校への通学方法について協議を行った。

【各会議における協議経過】

●第1回（令和5年11月22日開催）

第1回会議では、①新校区検討部会で協議する特色ある教育の取組について協議し、「熊舞」と「鬼みこし」をテーマとする考えをまとめた。

②幌別中学校への通学方法については、遠距離通学費補助とスクールバスが想定されることを確認するとともに、それぞれのメリットとデメリットを整理した。また、通学方法を議論するにあたり、広く保護者の意見を聞くため、次回会議で意見交換会を開催することとした。

●第2回（令和5年12月20日開催）

第2回会議では、登別中学校、登別小学校、校区内未就学児童の各保護者を対象に意見交換会を開催した。意見交換会では、事務局である教育委員会より、遠距離通学費補助とスクールバス、それぞれのメリットとデメリットに関し説明があり、それを踏まえて意見交換を行った。参加者からは、公共交通機関での通学に関し、乗り遅れ時の待ち時間の長さや遅延発生時の状況把握の難しさに不安を持つ声が多く聞かれ、全員がスクールバスでの通学を望む意見だった。

●第3回（令和6年1月31日開催）

第3回会議では、意見交換会の開催結果も参考に、再度、幌別中学校への通学方法について協議した。部会員からは、公共交通機関で通わせることにより、子どもの成長を促す効果があるとの声も聞かれたが、中学生の場合、学年による成長の差も大きく、不安を感じる保護者がいる以上、その不安を解消する方策をとるべきとの意見があり、意見交換会で参加者全員がスクールバスを希望していたこともあり、通学方法はスクールバスとする意見をまとめた。なお、スクールバスの運行方法などについては、運行までにまだ間があることから、引き続き教育委員会から情報提供を受けつつ、バス事業者の動向が見えてきた段階で、あらためてPTAを中心に協議することを確認した。

（2）新校区検討部会における協議経過

新校区検討部会では、令和5年12月から令和6年2月にかけて3回にわたって会議を開催し、部会の協議テーマ（①校名／校歌／校章について②制服のあり方について③特色ある教育の取組について④生徒同士の事前交流事業について）のうち、①校名／校歌／校章について②制服のあり方について協議を行った。

【各会議における協議経過】

●第1回（令和5年12月7日開催）

第1回会議では、①校名／校歌／校章について②制服のあり方について協議を行った。このうち②制服のあり方については、統合を機に新たな制服を導入する意見をまとめ、その詳細については、引き続き協議するこ

ととした。また、①校名／校歌／校章については、「新しくした方がいいとの意見」と「『幌別中学校』を継続した方がいいとの意見」があり、それぞれの立場から活発に議論が交わされた。

●第2回（令和5年12月21日開催）

第2回会議では、①校名／校歌／校章について②制服のあり方について、引き続き協議を行った。このうち、制服のあり方については、統合時に全学年、全生徒が同じ制服を着用できるよう、令和7年度の新入学生から、統合前の両校で先行して新制服を導入する考えがまとめられた。また、校名、校歌、校章については、事務局から、統合に合わせて校舎を新設する場合には他市でも校名を新しくする例があるが、既存の校舎を使用する場合には継続するケースが多いとの説明があったほか、令和17年度までにさらに西陵中学校との統合が想定されているとの説明があり、それも参考に議論した。登別中学校区の関係者からは、両校は距離的にも心理的にも距離があり、一体感を出すためにも校名などは新しくした方がいいとの意見のほか、統合に対するマイナスイメージを無くすためにも必要との意見があった。対して、幌別中学校区の関係者からは、校名等も大切だが、教育の中身の部分で新しい学校を作ることが大切との意見のほか、校名などを変えらば、地域住民や同窓生の理解を得るのに相当の時間を要するとの意見があり、長時間にわたり議論したが結論は出ず、次回あらためて協議することとなった。

●第3回（令和6年2月7日開催）

第3回会議では、校名、校歌、校章について、それぞれの立場から活発に意見が交わされた結果、今回は校舎の新設を伴わず、引き続き校舎を使用する学校名等を継続することが理解しやすいことから、制服を新しくし、特色ある教育の取組など両校の良さを活かすことで新しい学校を作っていく一方、校名、校歌、校章については、「幌別中学校」とする考えがまとめられた。なお、③特色ある教育の取組について④生徒同士の事前交流事業については、引き続き協議していくことを確認した。

2. 両校統合にあたっての課題への対応方法や環境整備に関する中間意見

幌別中学校と登別中学校の統合に関する学校統合委員会は、両校の統合にあたり生じる課題への対応方法や環境整備について、次のとおり中間意見を提出する。

① 校名／校歌／校章について

今回は幌別中学校の校舎を継続して使用することから、同校の校区拡大

と整理し、統合後の学校の校名、校歌、校章については、「幌別中学校」とする方向で検討すること。なお、統合にあたっては、(後述するとおり)新たな制服を導入することで一体感を創出するとともに、特色ある教育の取組など両校の良さを活かすことで魅力的な学校を作るよう努めること。

② 制服のあり方について

統合後の学校では新たな制服を導入することを基本に検討すること。なお、新制服の導入にあたっては、統合時に、全学年、全生徒が同じ制服を着用できるよう、令和7年度の新入学生より、統合前の両校で先行して制服を導入する方向で検討すること。

③ 幌別中学校への通学方法について

幌別中学校への通学方法については、スクールバスまたはスクールタクシーを基本に検討すること。なお、その運行方法などについては、バス事業者の動向が見えてきた段階で、あらためてP T Aなどと意見交換を行い、その結果を踏まえて検討すること。

なお、④特色ある教育の取組について⑤生徒同士の事前交流事業については、引き続き学校統合委員会で協議し、あらためて意見書を提出する予定であり、その内容を踏まえて検討すること。